

スポーツ審議会総会及び前回部会における主な意見

スポーツ審議会総会（第 34 回）（令和 5 年 3 月 29 日）

＜原則 2 関係＞

- 国際舞台で人脈を築き、経験を積んだ人たちが、これからという時に任期切れとなってしまふことを危惧している。IF 含め国際的な舞台で活躍するには、役員任期の制限に柔軟性があった方がよいのではないか。
- 過去の経験から、組織はもとより人的なネットワークが非常に重要だと感じている。ガバナンスコードの在り方の議論についても、組織と人材の継続を重要視していただきたい。
- 中央競技団体からは役員の任期上限についての意見が多く出ている。国際的な活動に携わる役員に関しては、この上限ができたことにより活動しづらくなっている面がある。
- 国連等の様々な委員会では、障害のある方を 1 割程度入れて議論を行っている。ガバナンスコードにもそういった声を反映させてほしい。

スポーツ審議会スポーツ・インテグリティ部会（第 1 回）（令和 5 年 4 月 27 日）

＜原則 2 関係＞

- 余人をもって替え難い役員等がいる場合には、主観ではなく客観的に見て余人をもって替え難いかどうかを詰めていく等、誰が見ても納得できる形で議論していく必要がある。
- 理事は 2 年に一度の役員改選において解任されてしまうかもしれないが、IF との関係などのために人材育成もしていく必要がある。そのような中で誰がどのような形で理事としての評価を行うのかも含めて検討する必要がある。
- 原則 1 にある人材計画のように、競技団体を誰がどのような役割で支えるべきなのかというビジョンの下、理事の役割や理事会としての機能について議論すべき。

＜原則 4、6、10、12 関係＞

- 弁護士や公認会計士などの専門人材が何をどのような形で担うのか、という観点で見直しを進めることも一つの方法。

＜全体＞

- 気候変動やポスト SDGs など様々な環境変化を念頭において、中央競技団体の存在意義なども踏まえながら、議論を進めていくことが重要ではないか。
- 様々な規模の団体がある中で、どのあたりの団体を対象にして議論していくかについて検討が必要。

- スポーツ団体向けだけでなく、一般向けのガバナンスコードについても見直しを行うことで、スポーツ団体以外のところで起きている体罰などの問題解決に役立つのではないか。
- ステークホルダーに対して自己説明することが重要。スポーツ団体がより具体的・合理的な説明ができるように、ガバナンスコードの説明を追加していくことも必要ではないか。
- パラやデフの団体においては、まずは形を整えることに注力し、いろいろ進んできた団体が多いのではないか。ようやく器ができあがった中で、それを実効性のあるものにするための検討が必要。
- 理事会に競技者の目線が無いと実感することがあるため、外部理事に対して、競技に特化した研修があってもいいのではないか。
- 企業の世界では ESG 投資、中でも人への投資が進んでおり、スポーツ団体にも広告宣伝のためのスポンサーではなく、社会貢献への投資が入るような流れができる可能性がある。こうなるためには、競技団体がもっと人的資本やサステナビリティへの取組を、今後の伸びしろも含めて発信できると良い。
- 「我々の団体は」という主語での自己説明が多くなっているが、「選手やコーチが」に主語を変換すると、より本質的なものになるのではないか。
- ガバナンスコードは罰を与えるためのものではなく、組織の価値を高めていくものである。スポーツ団体には様々なステークホルダーがおり、公金も投入されているため、意識を高く持ち、形式主義に陥らず、しっかりと組織の価値を高めていくことが大事。
- 既に改革に着手している競技団体もあるため、そのような団体に対して梯子を外さないようにする必要がある。
- ガバナンスコードの遵守にはスポーツ団体の負担が非常に重いことを踏まえ、横断的に対応することで競技団体の負担を軽減することを検討する必要があるのではないか。
- 形式的な組織ルールの整備になってしまっている面があり、組織決定や組織運営において硬直的になっているケースも散見される。スポーツ団体は影響力や公共性が高いため、多様性を尊重しつつも、やはりコードに基づいて対応していかなければならないが、一定程度の柔軟性を持ったガバナンスの在り方についても検討する必要があるのではないか。

- 説明責任を果たしつつ、無駄なく効率的に資金を使うことができる人材はスポーツ界にはまだ十分にはいないものの、このような人材が育ち、いろんなスポーツ団体に行き渡ればスポーツ界は良くなると考える。一番大切なことは、良い人材を育て、スポーツ界を良くすることであり、ガバナンスコードはそのための手段である。

- 少子化の波はもはや止めることができず、これまでの右肩上がりの競技団体のやり方は限界が来ており、これからは努力しない競技団体は淘汰される運命にあると考える。また、IOCやIFの在り方も変わっていく時期に来ている。このような時代の変革期の中で、ガバナンスコードをどのように発展させていくのかということをしつかりと審議する必要がある。